

## NDCJ チャンピオン会

日時：2016年2月1日（月）12：00

会場：オフィス東京

出席者：中川勲、鳥居瑤子 天野博文、桜本和夫、田中英和、篠田忠、河内芳朗、

書記：横道明宏

1. （中川勲）ヨーロッパのプロ競技選手が減少している。その理由は外人コーチのレッスン代の高騰のためである。こんなことをしては選手が育たないのは当たり前だと思う。アジアはまだ、経済状態が良いためなんとかやっている。中国ではスポンサーが選手のレッスン代を支払っている。このままでは、競技選手の減少は目に見えている。
2. （桜本和夫）選手はレッスン代を稼ぐために働いている状況になっている。
3. （中川勲）本日は業界の発展を考えていきたい。日本の状況を考えると、過去にプロ1団体がアマチュアにライセンス発行を許したことにより、日本のダンス界では、プロが追い込まれ、自滅していく状況を招いてしまった。業界のことを考えないレッスン代の高騰が選手の拡大にブレーキをかけている。
4. （桜本和夫）組織がしっかりして、アマチュアが安易な方向に行かないようにリーダーシップを取ることが大切だと思う。国内だけではなく、海外で通用するスターを作ることが急務である。
5. （鳥居瑤子）どうやってスターを作るのでしょうか。
6. （桜本和夫）国際競技会で揉まれることが大切。「トップ選手の風を感じる」事が大切。
7. （中川勲）業界のスターはたしかに必要なだが、それだけでは不十分で、国民的なスターが必要。現状はUKで勝っても、業界の人しか知らない状況である。これではスターとは言えない。メディアに訴えていくことが必要。
8. （桜本和夫）外人選手を呼んだ時にも、外人選手と戦える日本人選手が欲しい。せめて日本人が決勝に残らず、表彰台に上がれない状況は良くない。昔のジャーマンスタイルにてスターづくりを考える時期だと思う。
9. （篠田忠）日本人選手は海外の良い環境では良い踊りをするが、日本に帰って、環境が変わると、踊りも戻ってしまう。アジアオープンを皮切りに、JBDFでも6月に企画している国際競技会等、国際的な競技会に出ていくことが大切だと思う。
10. （中川勲）3団体が協力して、JBDCをサポートすることは、ボンマースでも合意している。
11. （篠田忠）JBDFでは、2016年6月18日に競技会を開催する。来年度はもっと事前に準備できると思う。一般の会員に理解させるために時間がかかっている。JBDCとしても、JBDF東部の決定を待ってから動いたのでは遅いので、現在すでに動いている。
12. （桜本和夫）今、シラバスを作って動いている。11月の競技会開催に向けても動いている。
13. （桜本和夫）主催と主管に関して、アジアオープンはどうなっているのですか？
14. （中川勲）NDCJにて決定していますが、NDCJ主催、JDC主管になっています。
15. （田中英和）シラバスではJDC主催となっています。
16. （中川勲）シラバスが公表された時点では、NDCJ主催と決定していなかったため。
17. （鳥居瑤子）鳥居弘忠の名前が役員に入っていない。
18. （河内芳朗）3団体での実行委員会開催が遅れたのも影響している。
19. （桜本和夫）今年の6月はどうにもならないから、11月の大会をJBDCからのNDCJ主催競技

会にしたい。

20. (中川勲) 現在、NDCJ の大会数は7つの大会にて承認されている。JBDC のどの大会を7大会の中に入れるかはまだ決まっていない。
21. (桜本和夫) 11月の大会のほうがやりやすい。
22. (中川勲) 6月の競技会をNDCJ主催、JBDC主管競技会と思っていた。6月の大会をJBDC主催で開催するとすると、又話が違ってくる。
23. (中川勲) 議題を戻して、レッスン代の高騰、アマチュアにライセンスの発行を許可したことについて話したい。これらを解決しないと、業界全体が駄目になる。
24. (鳥居瑤子) 世界ではプロもアマも差別していない。
25. (中川勲) 競技会ではそうですが、仕事に関しては、アマチュアはそれには関わらず、プロがレッスン業にて収入を得ることが暗黙の了解事項であった。
26. (中川勲) プロ1団体がはじめてJDSFもこれに倣って、アマチュアのライセンス発行となった。今後どうしたらプロが働ける方向に向けることが出来るのかを皆さんと一緒に考えたい。
27. (篠田忠) ヨーロッパのプロが減っているのは、レッスン料が高くて減っているとのことでしたが、日本ではパーティ関係で収入を得ている。現在、高齢者が殆どで、その次の年代のお客さんがいない。ここでは、選手を育てるために、良い競技会を開催することが大切と思う。
28. (篠田忠) 競技会を見ていると、UKはオールジャパンに見えた。これだけ選手が来ている中で、他のヨーロッパの選手、はレッスンを受けているのかを考えると、そんなに受けていないと思う。選手個人が出来ることには限界がある。日本も連帯感を持つことがパワーになると思う。
29. (篠田忠) 現在、準決勝にも残らない状況が続いている。はじめて参加した若い選手もいるが、日本人選手があまりにも早く落ちてしまうと、若い日本人選手は頑張ろうという気持ちにならないと思う。日本が発展するためには、選手育成、良い競技会、そして日本がまとまる事が必要だと思う。
30. (田中英和) NDCJにて統一全日本終了後に、日本人による kongress を開催するのはどうか。
31. (桜本和夫) 点数をもらいにレクチャーに出席する選手がいるかもしれない。
32. (中川勲) 良いことだと思う。レクチャーを受けることにより、そこに出席する選手をサポートしてもよい。これから日本の選手を世界で活躍させるためのレクチャーをする。又練習会も開催する。それらに参加した選手をサポートしていく。
33. (中川勲) 日本の選手を世界のメジャーな大会で成功するようにプッシュしていく為の具体的な行動を取っていくことが大切だと思う。
34. (田中英和) 現在、教室を借りきってダンスキャンプを開催しているところがある。そしてそれは年々増加している。それはいい事だが、その一方、外人コーチはそこで、「私がここにいる限り、あなた達は大阪で日本人のコーチはいらない。」と日本語で言っている。
35. (中川勲) そのような話が出てくると、より良いアイデアが出るかもしれない。会議ではなかなか発言が制限されるが、懇親会にて和やかな雰囲気の中で話をすると、いろいろな良い案が出ると思う。
36. (中川勲) 幾つかの情報です。WDSFのカルロス・フライターグが辞任した。後任はルーカス・ヒンデル、どのような人かはわかりません。
37. (中川勲) TAFISA (タフィサ)、いわゆるアジアゲーム、国際スポーツ・フォー・オール競技会、WDCもそれに参加することになっている。今年は11月にジャカルタにて開催する予定です。

38. (中川勲) インドネシア在住のテディーとメイは、インドネシアにてあらゆるビジネスを行って大成功を収めているシニアの選手でケンピンスキーホテルもジャカルタに持っている。そんな彼らがタフィサに協力を要請した。
39. (篠田忠) 採点管理について、審査員が書いたものを、第三者の手によって打ち込むことは、ミスが起こり得る。マークシートのほうが良いのではないか。
40. (中川勲) どちらかの方法に統一したほうが良い。
41. (中川勲) 各団体からチェッカーが出ればよいのでないか。
42. (中川勲) タブレット方式はどうか。ジャーマンオープンでは競技会の会場内に大きなパネルがあつて、観客にすぐに見えるようになっていた。
43. (田中英和) 西部総局では端末で審査を行っている。たまに故障があるので外人審査員が入るとそれは使えない。
44. (中川勲) 3団体の選手、審査員が納得する方法を模索したい。
45. (中川勲) この件は来月、事務局より議題提案をお願いします。
46. (中川勲) 本日はこれで終了します。